

かみ ぎり てら お こ ふん ぐん 上切寺尾古墳群

たか やま し かみ ぎり ちょう
高山市上切町



発掘区全景

上切寺尾古墳群は、川上川左岸の丘陵地^{きゅうりょうち}に立地します。縄文時代の^{たてあな}竪穴建物がみつかり、古くは縄文時代から人々が生活していました。発掘調査では、主な遺構として弥生時代後期から古墳時代初頭に造られた墳墓群^{ふんぼぐん}を確認しました。



墳墓

丘陵上からは、弥生時代後期から古墳時代初頭に造られた51基の墳墓を確認しました。墳墓の周囲には溝が掘られ、その土などを盛って墳墓が造られました。^{ふんきゆう}墳丘盛土が残存する墳墓群の発見は、岐阜県内でも稀有なものです。



墳墓群から出土した土器

墳墓群からは、土器が出土しました。これらの土器の器種は、器台^{きだい}・高坏^{たかつき}・壺^{つぼ}といったもので、供膳具^{きょうぜんぐ}であったと考えられます。

